

第3次葛飾区地域福祉活動計画 第2回策定委員会 議事要旨

開催日時	平成28年8月31日（水）午後2時～3時50分
開催場所	ウェルピアかつしか1階 ボランティア活動室
出席委員	河合委員長、秋山副委員長、堀越委員、浅野委員、伊藤隆一委員、根岸委員、星委員、塙委員、井上委員、佐野委員、市丸委員、上原委員、板倉オブザーバー（欠席）岩城委員、星野委員、岡田委員、小林委員、伊藤葉子委員、丹委員、浅田委員
配布資料	【資料1】第3次葛飾区地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査報告書（案） 【資料2】第2次計画の取り組みの成果と課題について 【資料3】第3次葛飾区地域福祉活動計画（素案のイメージ）

■ 議事

1. 開会

2. 議事

①調査結果と地域課題について

事務局より、アンケート調査の結果と地域課題について説明があった。

②現行計画の成果及び今後の課題について

事務局より、現行計画の成果及び今後の課題について説明があった。

- 第2次計画の成果と次期に向けた課題を全体的に整理した説明だったと思う。作業委員会でも議論があったと思うが、いかがか。
- 作業委員会ではどのように評価するのかという話があり、マイナスの評価だけでなくできているところはできていると評価しなければ、次につながらないのではないかという意見があった。また、社協としてどのあたりを重点的な課題と捉え、力を入れていきたいと考えているのかという質問があり、どのように成果を見ていくか議論したところである。
- 第1次計画をつくったとき、小地域福祉活動を重点項目としてあげた。もうすぐ全19地区にできるということだが、第3次計画に向けて、事務局として現在の小地域福祉活動の現状と課題をどのように捉えているのか。
- 現在19地区中、18地区で活動が展開されている。早いところでは8年くらい前から、新しいところでは昨年度や今年度はじまった地区もある。課題としては、早いところでは担い手の固定化が生じて新しい参加者が増えず、次にバトンを渡せないということや、ずっとこのまま同じ活動をしていて良いのかといった不安を抱えている地区もあると聞いている。このため第3次計画では、社協職員が各地区の状況や活動に応じた支援をどのようにしていくのか、地域の実情に合った支援体制について出していきたいと考えている。

● 小地域福祉活動をしている社協は全国的には多いが、首都圏、特に 23 区では少ないと思う。事務局の支援の仕方もいろいろなパターンがあると思うので、発想をもう少し大きく持って、このようなことをといったことは何か考えているのか。

○ 小地域福祉活動は全国さまざまなところで展開されているが、都内で連合町会を単位として活動しているのは葛飾区だけではないかと思う。単位町会やボランティアグループなどを単位とした活動はいろいろ展開されていると思う。支援体制として、葛飾社協では職員全員で全地区を担当しており、複数の職員で複数の地区を担当する複数担当制を設けている。職員が必ず地域の人と一緒に何をやっていくのか、どのように福祉のまちづくりを進めていくのかを考えながら進めており、さまざまな地域の情報提供やアドバイスを充実させていきたいと考えている。

● 町会をベースとした取り組みとしては、町会内に福祉部をつくってやっているところが 23 区でもいくつかある。最近、都内の社協では、地域福祉コーディネーターを配置して、日常生活圏域に出かけて行つての個別の問題解決と地域での生活支援の仕組みづくりの両方を担う取り組みが進んでいる。地域担当制だけでは、どうしても行事のときに出かけていくだけといった形に留まることが多いので、地域福祉コーディネーターを配置して、個別の問題に関わりながら、仕組みづくりも一緒にしていくという取り組みをしているところが都内でも 10 か所くらいある。地域担当の職員が出かけて行って、町会の人から聞いた相談を地域福祉コーディネーターにつなげて、問題解決を図るといった二段構えのところもあるので、そういったことの必要性を葛飾区でも考えていただけると良いのではないかと。若い担い手をどのように発掘していくのか、その仕掛けづくりはどの地域でも共通課題になっている。先ほどの調査結果でも、町会長などの回答者は年齢層が高い方が多いので、若い層の活動や問題意識をどのように拾っていくのが課題ではないか。

● 小地域福祉活動に関しては、アンケート調査結果でもおわかりのように、町会役員の高齢化や次の世代の担い手不足が大きな課題である。町会長は男性が多く、民生委員は女性が多いが、町会でも活動している人は女性が多い。小地域福祉活動でいろいろな行事をやっても、圧倒的に女性の参加が多く、男性は 2 割程度である。これからはもっと男性が地域に出ることが必要になる。一番大きな問題は、次の担い手がないということである。70 歳くらいまでは働いている人も多いので、人はいても地域活動に出てくれる人が少なく、町会活動になかなか手を貸してくれない。昔は個人は質素に、社会は豊かだという感じだったが、最近は個人は豊かに、社会は貧しくという風潮があるのではないかと。ボランティア活動といっても参加していただくのはなかなか厳しい。そのような後向きの状況の中で、第 3 次計画ではどのようにやっていくのか、条件をどのようにプラスに変えていくのかが一番問われている。計画にはいろいろな項目はあるが、さらに具体的に、誰が何をするのかを盛り込まないとなかなか厳しいと考えている。小地域福祉活動も 3 か月に 1 回といったイベント的なものが多いが、日常的な活動が地域に定着しないと、本当に目指している小地域福祉活動にならないのではないかと。今は町会役員や民生委員が中心となってやっているが、興味を持っている健康な高齢者が活動に参加して、お互いに支えあう仕組みができればと考えている。

● いきいきふれあいサロンは堀切地区センターでやっているものだと思うが、課題のところに平成 26 年度で終了と書かれている。これは、27 年度以降はやらない、あるいは自分たちでやりなさいということなのか。納得した上でやめるのであれば良いが、やりたいのにお金の関係でやめるということなのか。

○ いきいきふれあいサロン事業は、もともとは葛飾区からの受託事業として、社協と地域住民の協力で

運営していた。受託事業としては平成 26 年度で終了したが、せっかく地域に根付いてきた活動であり、位置づけを変えて、堀切地区の小地域福祉活動の一つとして、地域の自主団体として助成金を活用しながら実施しているところである。現在も継続して実施している活動なので、もう少しわかりやすい書き方にしたい。

● この助成金制度はどこがやっているのか。

○ 区の福祉管理課でやっている制度である。

● 平成 26 年度まではモデル事業だったが、27 年度以降も形を変えて区の助成金を活用して継続しているということだと思う。小地域福祉活動もイベント的な活動だけではなく、もう少し日常的な活動もすべきではないかという意見もあったが、それについてはいかがか。

○ 地域の方が中心となって自主的に進めていただくのが小地域福祉活動なので、まずは自分たちでできることを、できるところから、できる範囲でということでお声がけしている。目に見えてわかりやすいのがイベントなので、取り組む地区が多いのだと思う。イベントが悪いという訳ではなく、そこから日常的なみまもりや声かけなどに発展していけば良いと考えている。まずはイベントなどをきっかけに、組織や活動が継続的、安定的に運営できるようになった上で、その先いろいろな活動を展開できるような働きかけをしていきたいと考えている。

● 社協が地区センター化を図れば、もっと地域と密着できるのではないか。地域に根差した社協になり、全体の活動が広がると思う。小地域福祉活動を通じて社協の認知度は上がっており、今までよく知らなかった人も行事への参加などを通じて社協を認識するようになっている。小地域福祉活動についてはそれなりの成果は上がっていると思うが、マンネリ化してくるので、次のことを考えていただきたい。

○ 担当を持っている職員一人ひとりが、そのあたりを念頭に置きながら支援していきたい。

● 全国的な事例を見ると、小地域福祉活動を促進するための大胆な施策を実施している社協もあると思う。いろいろな工夫をしているところがあるので、そのあたりを参考にして、次期計画ではもう一步踏み出した取り組みを実施していただきたい。

○ 他地区の事例なども参考にしながら、できる範囲のことに触れることができればと思う。

● 活発に取り組んでいるところが、社協本体としてどのように支援しているのか、いろいろな手法があると思うので、葛飾区でできることを載せることも考えられるのではないか。

● 民生委員をしているが、私の地区でも小地域福祉活動をはじめて 10 年になる。アンケート結果にも書かれているマンネリ化については私の地区でも同じように感じている。地域の絆づくり、仲間づくりということでやっているが、イベントとしては月 2 回健康サロンを、年 1 回お茶会や健康フェアなどを実施している。健康サロンに来る人は大体同じような人 20 人程度で、グループができて良いと思うが、向三軒両隣ということであれば、もう少し違うやり方もあるのではないか。毎朝ラジオ体操をやると、40～50 人集まる。葛飾区では 30 か所くらいの会場でやっているが、私の地区では 365 日やっている。健康のためにも良いが、大体が高齢者なので、毎日来ている人が 2～3 日来ないとしたのかという話になって確認したりするので、みまもりにもなっている。ラジオ体操に限らず、地域には仲良しクラブなどそのようなところがたくさんあるので、そうしたところにも社協から助成していただければと思う。

○ ラジオ体操やサロン活動は、普段来ている人が来られないときにみまもりや気づきにつながるなど、いろいろな効果があると思う。現在、各地区の小地域福祉活動に20万円の助成金を出しているが、19地区がそろった時点で、第3次計画期間に各実施地区の方の意見を聞きながら、助成金のあり方を含めた職員の支援体制などについて検討したいと考えている。その中で、助成金の使い道、使い勝手など、ご意見を聞きながら考えていきたいので、その際にはご協力いただければと思う。

● 私も非常に必要なことだと思っていたので、第3次計画では是非そのようなことも盛り込んでいただきたい。小地域福祉活動がはじまって8年くらい経過しているが、全地区にできるということもあるので、それぞれの地区から意見を吸い上げることは重要な作業だと思う。このような形で課題を整理した上で、このような方向で第3次計画をつくっていくということでご了解いただきたい。

③重点的に推進する活動と体系図について

事務局より、重点的に推進する活動と体系図について説明があった。

● 計画の枠組と基本理念、基本目標、重点項目等の説明があったが、重点1の小地域福祉活動の推進と重点2の地域支えあい活動の充実について、重点2の中身はどのようなものと考えているのか。

○ 重点2は高齢者や子育て中の保護者が地域で生活する上でちょっとした手助けが必要になることがあるので、支援を必要としている人と支援を提供したい人のマッチングを図ることで、さまざまな困りごとを解決する取り組みである。具体的には、社協で実施しているしあわせサービスやファミリー・サポート・センターなどがあり、このような支えあい活動の充実を図っていこうという内容である。

● 重点項目の活動主体ごとの取り組みに、区の取り組みを敢えて入れたのはどのようなイメージなのか。うまく区別できるのか。

○ 取り組みが重複するところもあるので、区の取り組みと社協の取り組みが力を合わせていけるように、また重複しないように、このような欄を設けているところである。現在小地域福祉活動に位置づけられているもの以外にも、地域の自主的な取り組みはたくさんあり、区で支援しているものもあると思うので、連携と協働、住み分けを図るために盛り込みたいと考えている。地域支えあい活動については、介護保険制度の改正で、家事援助など共助による住民主体サービスもはじまるので、区とも話し合っているところである。介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスBなどは、改正前から実施しているしあわせサービスと重なる部分もあり、そのような実績がある中で、訪問型サービスなどを社協で実施するという考え方も一部にはある。区の考え方が大きく変わってくるので、区の取り組みが大きく影響してくることも考慮して、このような項目を掲載しているところである。

● 私は区の介護保険事業審議会の会長も務めているが、社協や地域住民主体の活動に、敢えて区の取り組みを入れるのは、入れ方が難しいのではないかと。介護保険では地域包括ケアシステムということが言われているが、これは動機に不純なところがあって、お金がないので国民を動員したいという面がある。社協は住民を主体に活動を展開しているので、それが区に取り込まれてシステム化されるのは基本理念からはずれるのではないかと。社協独自の取り組みや住民主体の取り組みを区の取り組みと並べるのは難しいのではないかと。

○ 作成途中なのでまだ何とも言えない部分もあるが、区の取り組みが薄いものも、区から受託している事業もある。記述によっては社協の主体性に関わってくる部分もあるので、ご意見をふまえて慎重に考えながら進めたい。

● 今回送付された資料を読んで、自分が地域活動にどのように取り組んでいるか、どうして町会の活動にあまり参加していないのかなど、いろいろ考えるところがあった。小地域福祉活動は意義があることだとずっと思っているが、若い人がこの活動にどのように絡んでいけるのかを考えたときに、イベントは非常に大事であり、社協が日常的に地区のセンターとして入り込むという考え方も大切だと思う。次の世代がどのように活動に入り込んでいくのか、そのためにはどのような取り組みが必要なのかが、全ての活動についての課題ではないか。大学生など若い世代はどのように地域社会のことを考えているのか伺ってみたいという気持ちがある。活動の中でボランティアセンターにも関わっているが、大学生くらいの若い世代にボランティアまつりなどの活動に入ってもらうにはどうしたら良いか、仲間うちでは考えているので、そのあたりも第3次計画に盛り込まれると良いと思う。

● ボランティア活動を発展させる計画の委員会も別に立ちあがって調査などを行っているところなので、事務局に説明をお願いしたい。

○ 関連計画としてボランティア活動推進計画を策定中であり、後ほど報告させていただきたい。その計画の策定にあたって、高校生などにアンケートを実施しており、ボランティア活動のイメージや、活動をはじめるときにどのような情報が必要か、どこから情報を得ているのかなどを調査した。対象は高校2年生だが、ボランティア活動や地域の活動に全く興味がないという訳ではなく、半数以上の方が関心を持っていたり、参加したことがあるという結果だった。そのような方をどのように巻き込んで参加してもらうのか、特効薬は見当たらないが、社協ができることと、地域の方と一緒にやっていくことを分けて整理していきたいと考えている。社協ができることとしては、このような活動がある、どうすれば参加できるといった情報発信が非常に大切だと思う。ちなみに高校生は、ラインやツイッターが大きな割合を占める一方で、フェイスブックやホームページはほとんど見ていないということがわかった。年齢の高い方は広報紙やポスターを見る人が多いので、世代ごとにターゲットに合った情報発信の仕方を工夫していきたい。

● ボランティア調査の結果を本委員会の委員に提供することはできないのか。

○ 提供できるので、準備の上追ってお示ししたい。アンケート調査では興味深い回答が多く、これまで社協では若い方向けだと思ってフェイスブックに力を入れていたが、高校生はほとんど見ていないことがわかった。第2次計画の策定に向けて、新しい方法を考えていきたい。調査結果は、計画をつくっていく上では大変参考になった。ボランティア調査の結果については、次回ご報告したい。

● ボランティア活動推進計画検討委員会では、高校生2名、大学生1名、中学校の副校長1名が委員となっている。中学校の先生からは、大学生、中高生がどれくらい葛飾区に残るのか、かなり流動的に動いているので、葛飾区の地域活動に定着してもらうのはなかなか難しいという意見があった。まだ煮詰まっていないところもあるが、今回素案のイメージという形でたたき台が示されたので、今後このような形で作業委員会で検討していただくということでご了承いただきたい。次回の策定委員会では、作業委員会で修正したものについてご意見をいただきたい。

④その他

事務局より、ボランティア活動推進計画と今後のスケジュールについて説明があり、9月30日に第3回作業委員会を開催する予定であることなどが報告された。

● 作業委員会での検討については、議事要旨は作成しているのか。策定委員会の委員には途中の議論が

わからないので、作業委員会の審議内容がわかるような配慮をしていただきたい。

4. 閉会

(以上)